

BB通信

3・4月号vol.17



×



5月が始まり、半袖でも過ごしやすい季節になってきました。4月には31名(5月5日時点)の新入部員を迎え、南花台はますます賑やかになってきました。33期生も、後輩ができました。32期生は最上級生として、後輩に手本を示す時期になりました。立場が変わり、選手が人間的に大きく変化するのがこの時期です。それぞれの学年がどのように変化・成長していってくれるのかを楽しみに、私たち指導者は選手の様子を見守り、サポートし続けていきます。

「ようこそ堺ビッグボーイズへ」

コーチ 久富 恵介

34期生の選手・保護者の皆様、数多くあるチームの中から堺ビッグボーイズを選んで頂きありがとうございます。

まずは幼少期の身体と心のかみを取り除きながら、選手達がビッグボーイズでの活動を楽しんで取り組める環境を整えていきます。特に1年生時は「野球に関係あるの?」と見える練習を目にすることもありますが温かく選手とチームを見守って頂ければ幸いです。上級生も当然ながら現1年生がこれから行っていく練習メニューや堺ビッグボーイズの様々な活動の中で成長しています。

選手達に怒号・罵声を浴びせ恐怖で縛りつけることは非常に簡単なことですが、それらの行動は選手達の将来に繋がりません。常に人の顔色を気にしながら、怒れないように安全な道ばかりに進む「人」になってほしいです。野球という団体スポーツを通じて、自ら考え行動できる「人」になる訓練を行っていきます。

好きで始めた野球がもっともっと好きになるように、彼らと一緒に活動していきます!!

「正しい靴の履き方」

コーチ 土井 幹大

最近靴の履き方で矢田接骨院の院長先生にご指摘を受けることが多くあります。

なぜならば練習中の選手の足は靴の中でフィットしておらず動いているからです。技術が進歩し今の野球道具は機能が優れていますが、正しく履かないといくら良くても次のようなことが起こってきます。

一つ目は靴擦れ・捻挫などのけがにつながる恐れがあることです。
二つ目は自分の思い通りに身体の力を伝えることができないことです。
よって、靴を正しく履くということはとても大切なことなのです。

そもそも、正しい靴の履き方というのは、まず靴の紐を上から下まで緩め足を入れます。そのあとに靴の一番後ろにかかとをトントンして合わせ、下から紐を締めていきます。

これが正しい靴の履き方です。

わかってはいたけど面倒くさくて紐を緩めたまま履いている選手や知らなかった選手はこれを機会にずっと正しい靴の履き方をし、自分の体をうまく使って欲しいと考えています。

「私の受験勉強奮闘記①」

コーチ 岩井健一

気候が暖かくなり、これからが野球シーズン本番です！

…とはいえ、3年生はこれから受験に向けての勉強も始まります。「野球と勉強の両立ができるかな…？」そんな不安を抱えている選手もいるかと思います。ということで、これからはシリーズで私がどのように大学受験を乗り越えていったのかという体験談を書かせていただきます。少しでも保護者の方と選手の参考になれば嬉しく思います。

今となっては、高校や塾で勉強を(偉そうに?)教えるような立場になった私ですが、高校での成績は最悪でした。もともと高校では、公立高校ではありましたが、「とことん野球をやる! 甲子園に行く!」と決めていたので、テスト前も勉強はほとんどせずに野球の練習ばかりしていました。数学のテストでは、0点を二回連続で取ってしまったこともありましたが、欠点も何回も取ってしまい、「お前はそのままいくと卒業できない!」と担任の先生から脅されているような生徒でした。

最後の夏の大会が終わった頃には、模試の偏差値は30を少し超えるくらい(しかも偏差値が何なのかもわかっていませんでした)、全校生徒が440人の学校で順位は439位(下から二番目)といった状態まで成績が落ちてしまっていました。しかし、私は自分のことを「勉強ができないやつ」とは思っていませんでした。なぜなら、自信を持って「俺は勉強をとことんやったことがない!」言えたからです。どうせなら、「俺は勉強はできない! イエーイ!」と胸を張って言えるくらいまではとことん勉強と向き合ってみよう!と受験を勉強を始めた時決めたのでした。

息込んで勉強を開始した私でしたが、ふと思うと、これまで勉強をとことんやった経験がないので、自分がどのくらい成績が上がるのかがわかりません…。「それなら自分のレベルに関係なく、行きたいところを決めて勉強を始めてみよう!」そう思い立ちました。私はその時になって、ようやく自分が将来何をしたいのかを真剣に考え始めました。その時に決めた基準は、「国立大学で、家から通えて、先生になるための勉強ができて、硬式の野球部があって、就職にも強い大学」というものでした(笑)。今から思うと、勉強ができないが高校生がよくもそんな偉そうに大学を選びをしていたなあと思いますが、当時はなぜか本気で自分ならできると思っていました。

そう決めた私は、高校3年生の夏から遅すぎる学習塾入塾を決心します。しかし、そこからが私の受験勉強地獄の始まりでした…(次回に続く)。

「文武両道の大切さ」～OB選手の声～

28期生 山本 優

中学時代、僕は毎週グラウンドへ行って練習するのが楽しみで週末になるのが待ち遠しかったです。

練習はもちろん楽しいことばかりではありませんでした。

その中で僕が一番辛かった練習は二十分間走です。力を抜こうと思えば抜ける練習でした。でも自分より上手い選手と同じ練習の取り組み方、同じ練習量では意味がないと思い毎回一番になるために全力で走りました。

その積み重ねが高校でも一つの練習に対して全力で取り組むことができたことにつながったと思います。

毎週日曜日の午後からの自主練習では自分に足りないところを補う練習、自分の長所をさらに伸ばす練習を自分で考えて練習することができました。

僕はビッグボーイズでの三年間で誰よりも土井監督、久富コーチにノックを打っていただいたと思います。

僕は自主練習で土井監督、久富コーチのノックを受けている時間がすごく楽しくて、一番の思い出です。

自主練習が終わった時も、もっとノックを受けたい! もっと練習したい!と毎週思っていました。指導者の方々本当にありがとうございました。

今年から大学生になりましたが、今思うことは中学生の頃から勉強をする習慣が身につけていて本当に良かったということです。

これは堺ビッグボーイズが野球だけではなく、勉強もしっかりしなければならないという環境だったからだだと思います。

今、改めて文武両道の大切さを実感しています。とても充実した三年間を過ごさせていただきました。

僕は堺ビッグボーイズに入部して本当に良かったと心から思います。

ありがとうございました。

■山本優君(堺ビッグボーイズ28期生一浪速高校一関西外国語大学)

大阪市内の軟式チームからビッグボーイズに入部、入部当初は身長150cm、体重40kgでした。身体の小さな選手でした。投げても打ってもボールが飛びません。身体の大きな選手は遠くにボールを飛ばします。

悔しい気持ちを抱えながら、下級生の頃から基礎練習、身体作りをコツコツ取り組んでいました。平日練習も大阪市内から電車と自転車を利用して南花台グラウンドに通ってました。ご両親の優を見守る気持ち、本人の努力もあり、卒部する頃には技術はもちろんですが、小さかった身体も身長174cm、体重54kgにまで成長しました。継続することの大切さを教えてくれた選手でした。これからは野球とは違い道に進みますが、彼がどのような社会人になるのかこれから楽しみです。